

図15, 不安解消に医師の説明以外で大切なもの

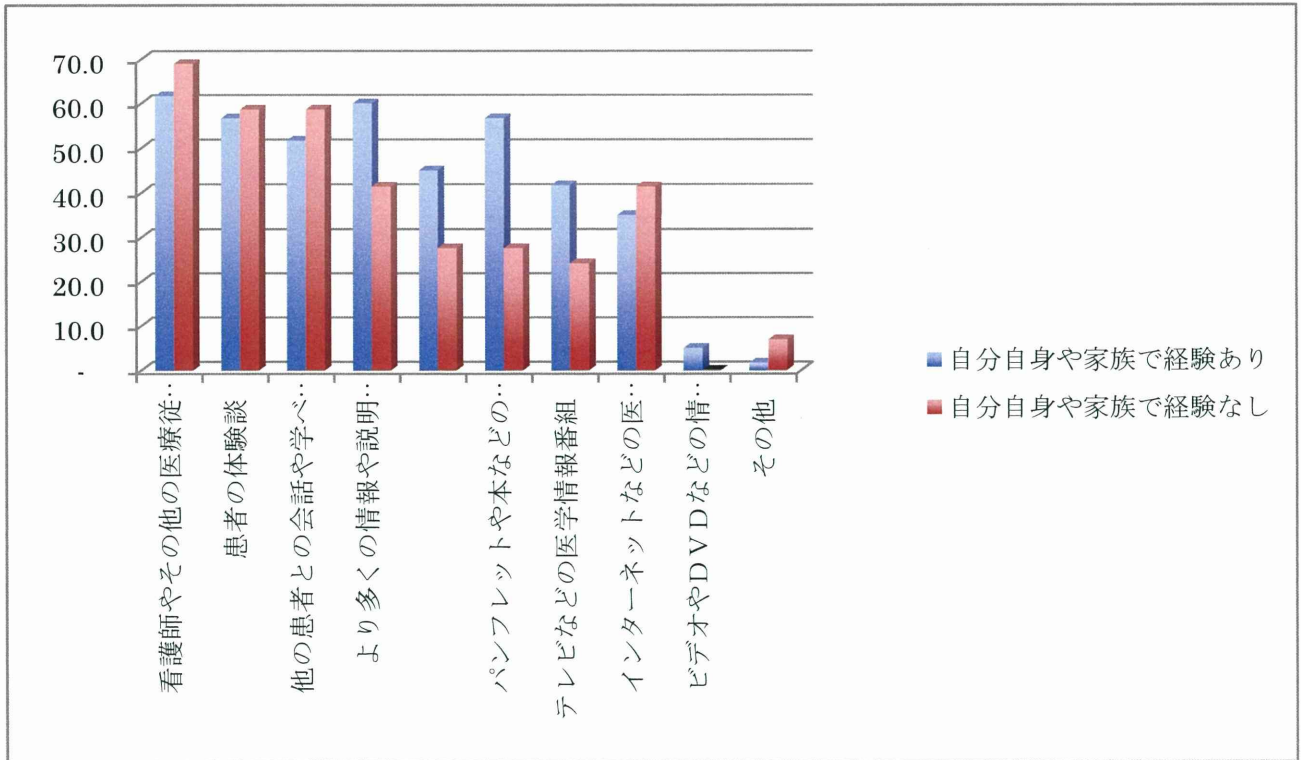


図16, 内容の評価

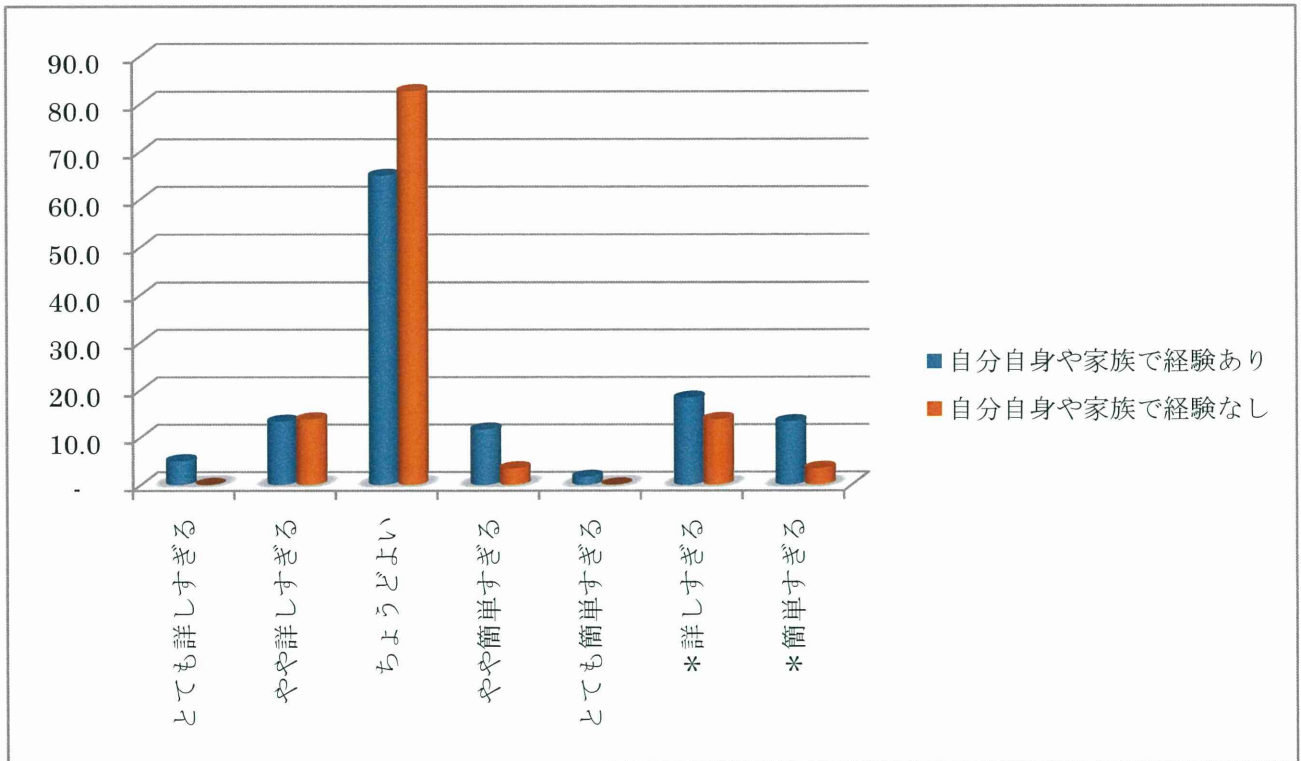


図17、役にたつと思うか？

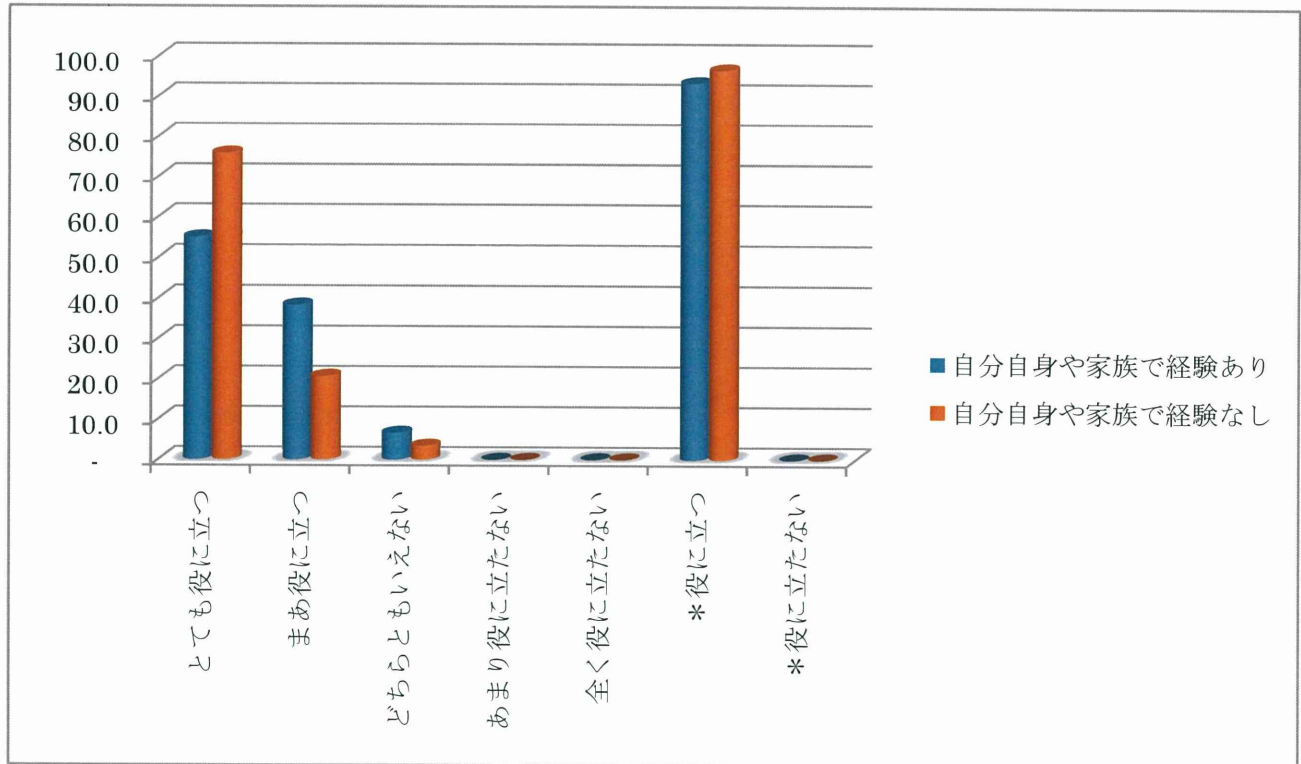
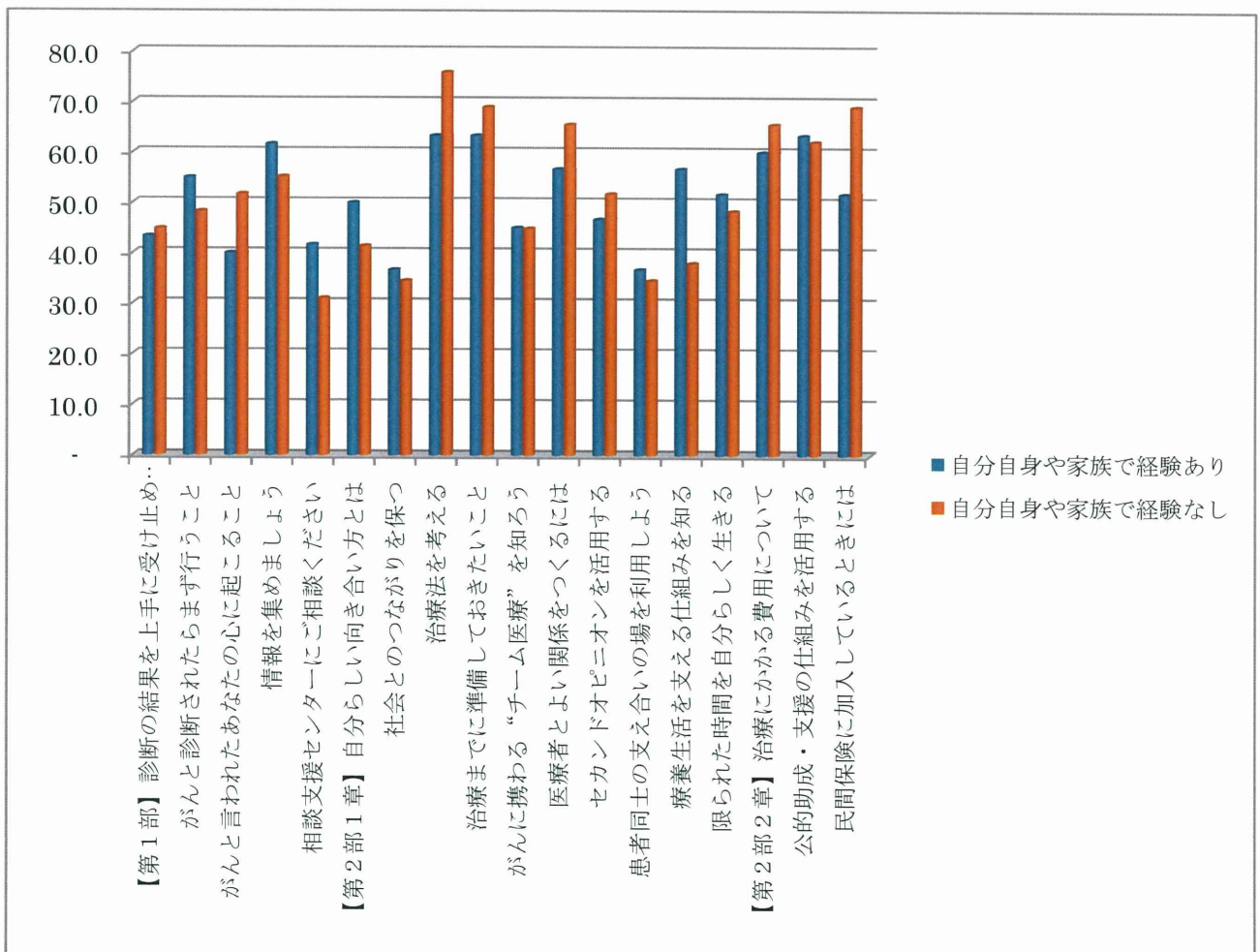


図18、がん患者として1〜2ヶ月後に活用している項目



19, 不安の解消に役立つと思われる項目

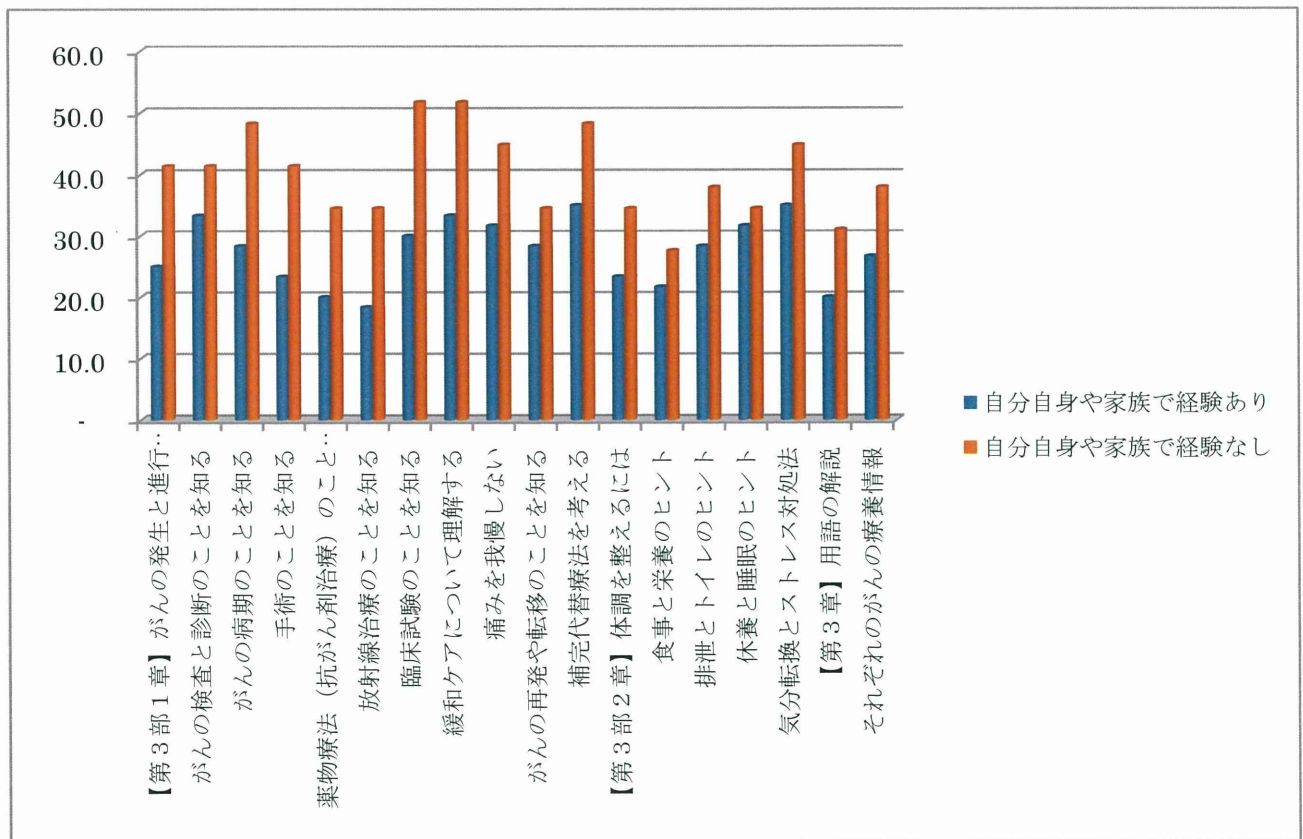
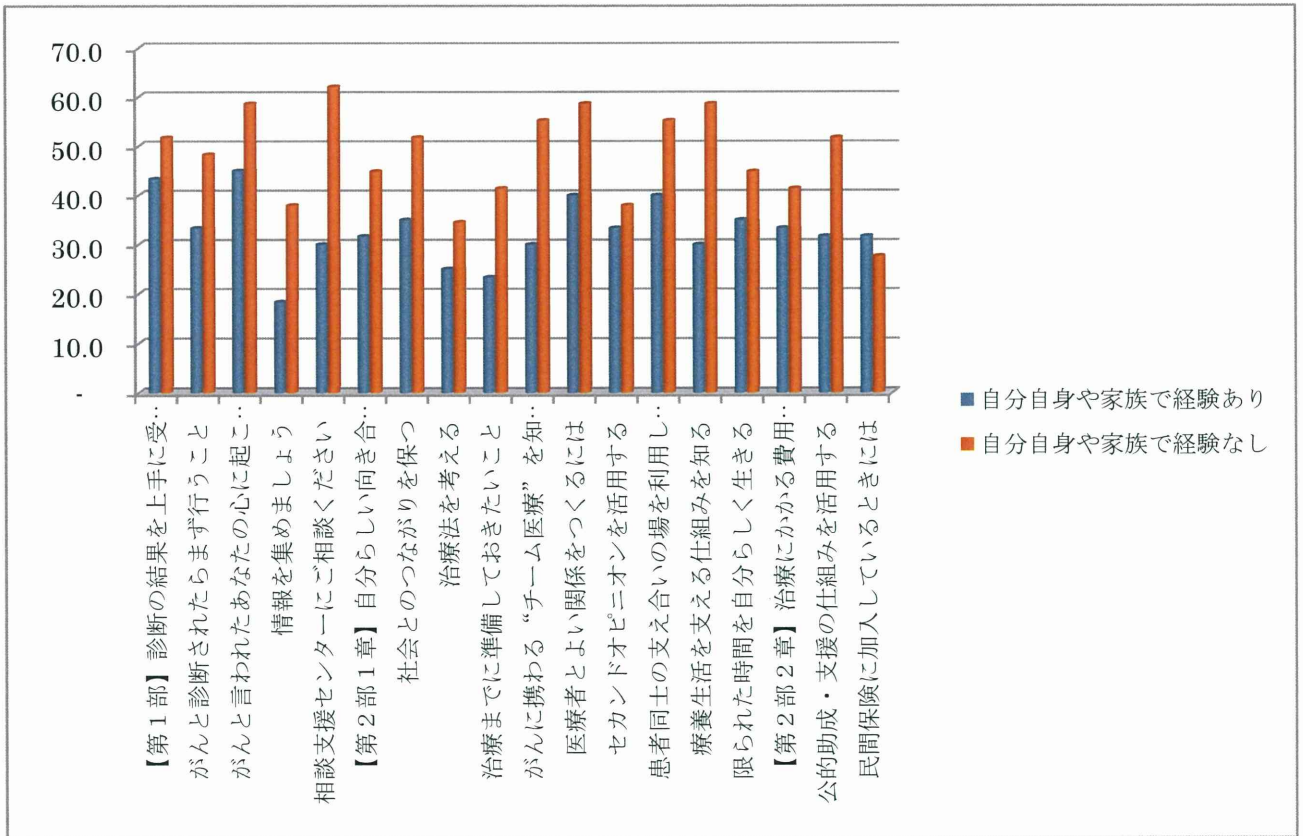
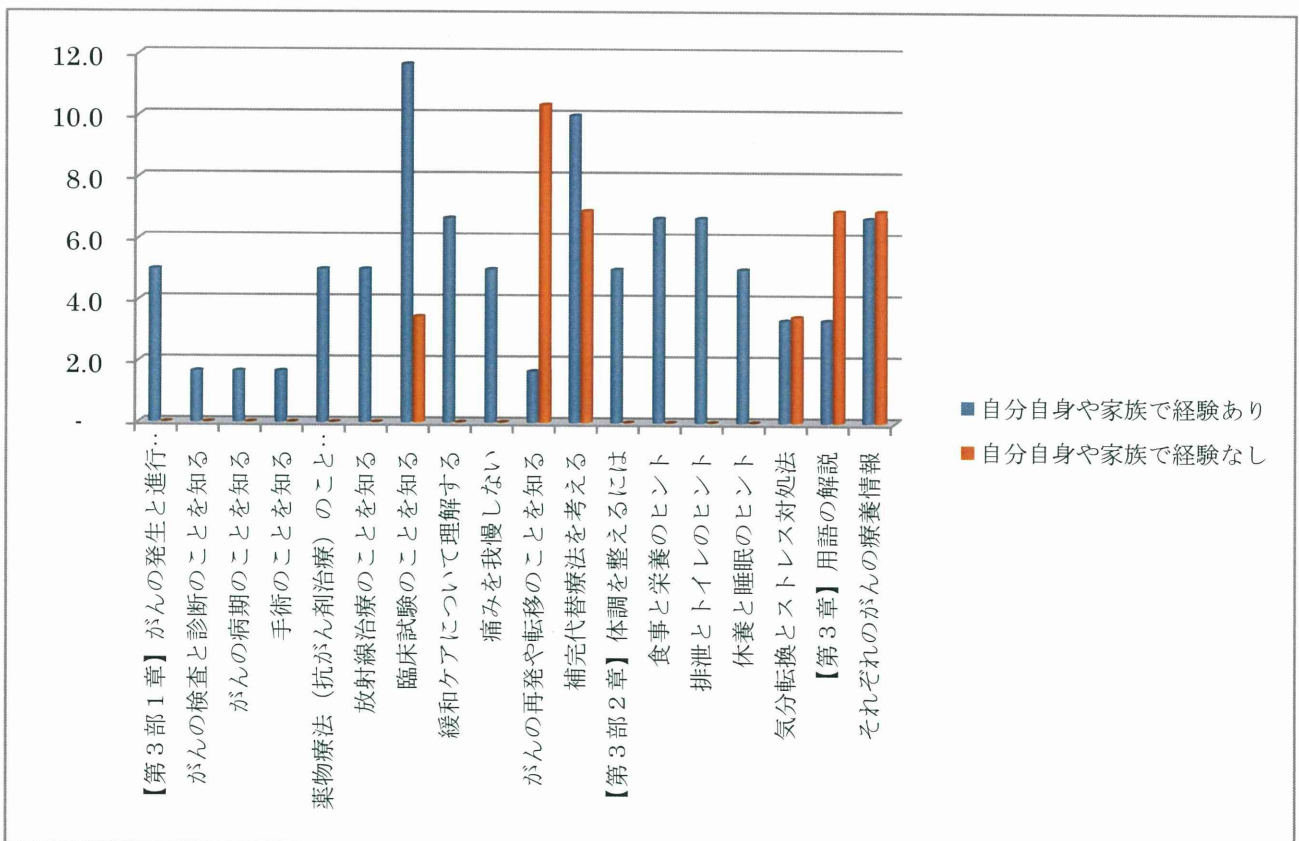
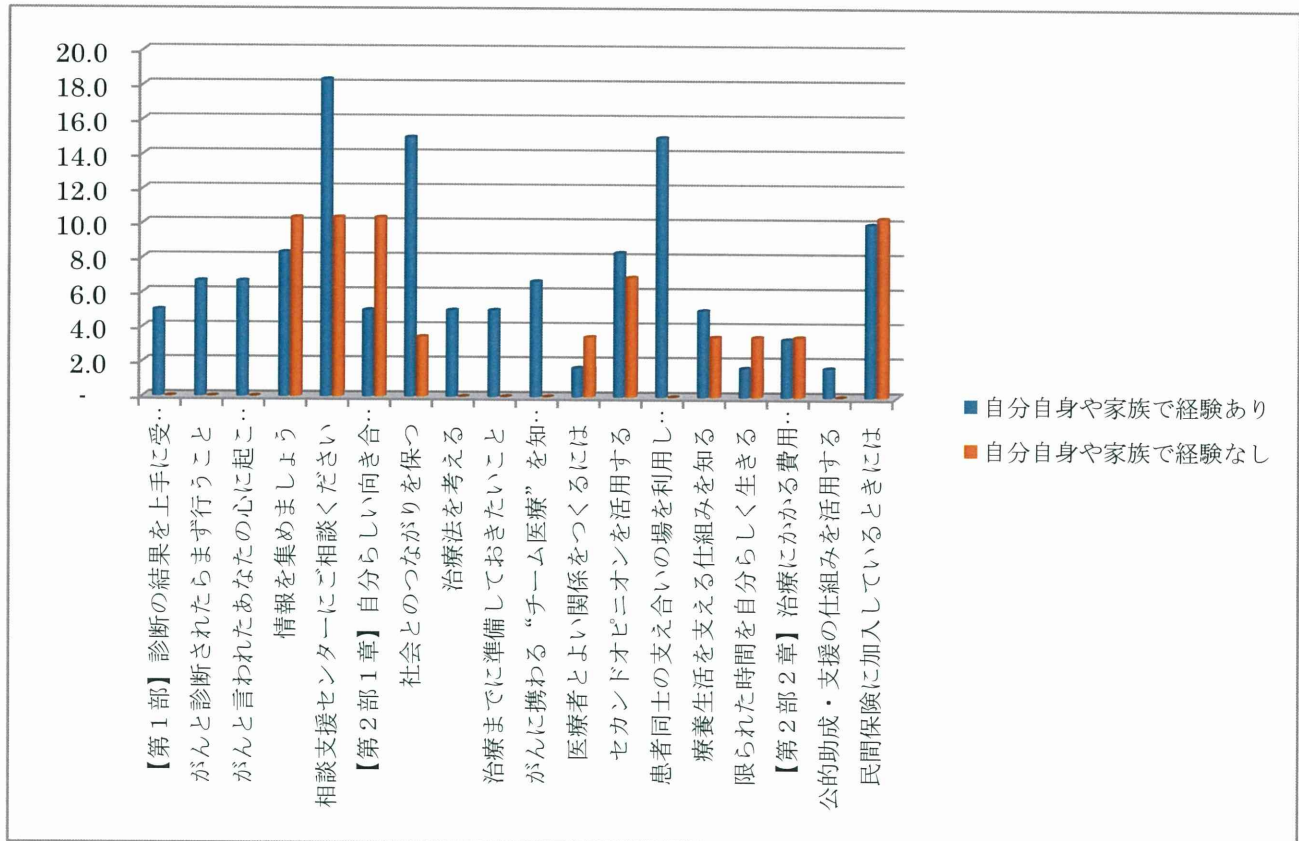


図20、全く使わないと思われる項目



がんの情報に関するアンケート



アンケート回収について 皆さまへのお願い

アンケート締切：6月30日（木）までに、
同封の封筒に入れて班長さんに提出してください。
あるいは郵送の場合には80円切手を貼付し、朝戸まで提出してください。



「患者必携」はがん患者さん・ご家族が がんの診療上必要な情報を収集し、整理し、あるいはわからないことをメモしたり、医療者と対話をするときに活用していただくように作成しているものです。ご自宅や医療機関で読んだり、書き留めたりするときなどにご活用いただくことを目指しています。

この「患者必携」は、がんに向き合う社会を目指して、全国の患者・家族・一般の方に向けてがんにかかった方の役に立つように全国的に普及できるか、検討段階です。アンケートは、信頼できるがんに関する情報を届けるための取り組みを検討する際の資料にさせていただきます。ご協力よろしくお願いたします。

アンケート締切：6月30日（木）までに、
同封の封筒に入れて班長さんに提出してください。

あるいは郵送の場合には80円切手を貼付し、朝戸まで提出してください。

研究実施機関：厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略事業

「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究

（研究代表者 渡邊 清高：国立がん研究センターがん対策情報センター）」

研究分担者：朝戸 裕二（茨城県立中央病院・茨城地域がんセンター）

このアンケートの送付先・問い合わせ先

送付先：各班長さん または

郵送の場合：茨城県立中央病院・茨城地域がんセンター 呼吸器外科 朝戸裕二 行
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵 6528

問い合わせ先：国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 渡邊 清高
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 TEL:03-3542-2511(5919)

【ご参考】国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス (<http://ganjoho.jp/>)

「患者必携」掲載ページ をご参照ください http://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/hikkei_index.html

* 患者必携はPDFファイルとして閲覧、印刷できます。

* また、市販本として3月より書店等で販売しています。

問1) あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 30歳代以下
2. 40歳代
3. 50歳代
4. 60歳代
5. 70歳代
6. 80歳代以上

問2) あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 男
2. 女



次ページへ続きます

問3) 現在または過去に、ご自身、ご家族や周囲にがんにかかっている方はいらっしゃいますか。

いる (当てはまるものすべての番号を○で囲んでください)

- ▶1. 現在、自分がかかっている
- ▶2. 過去に、自分がかかっていた
- ▶3. 現在、家族にがんにかかっている人がいる
- ▶4. 過去に、家族にがんにかかっている人がいた
- ▶5. 家族ではないが、現在、周囲にがんにかかっている人がいる
- ▶6. 家族ではないが、過去に、周囲にがんにかかっている人がいた
- ▶7. 自分や家族などが、がんではないかと疑っている

いない

問4) あなたがふだん、健康に関する情報で参考になっているものは何ですか？(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ(ニュースなど報道)	5. 一般の雑誌	9. 市民講座などの健康セミナー
2. テレビ(健康や医療の番組)	6. 健康や医療関連の雑誌	10. その他(具体的に:)
3. ラジオ	7. 病院のポスターやパンフレット	
4. 新聞	8. インターネット	11. 特にない

問5) あなたがふだん、健康についての理解を深める上で、信頼できると思うものは何ですか？
(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ (ニュースなど報道)	5. 一般の雑誌	9. 市民講座などの健康セミナー
2. テレビ (健康や医療の番組)	6. 健康や医療関連の雑誌	10. その他 (具体的に:)
3. ラジオ	7. 病院のポスターやパンフレット	



4. 新聞	8. インターネット	11. 特にない
-------	------------	----------

問6) あなたはふだん、インターネットやパソコンを利用しますか？ (○印は1つ)

1. している	3. 家族等に手伝ってもらってしている
2. ときどき	4. まったくしない

以下の設問は、「患者必携 がんになったら手にとるガイド」をお読み
になってから、お答えください。  次ページへ続きます

もし、あなたやあるいはあなたの家族ががんになったときのことを想像して、お答えください。日本人の2人のうち1人ががんにかかる現在、がんは決してめずらしい病気ではありません。

問7) この冊子のことを知っていましたか？

1. ある程度内容まで知っていた。
2. 名前くらいは知っていた。
3. 知らなかった。



次ページへ続きます

問7-2) 知っていたという方への質問です。どのように知りましたか？

1. テレビや新聞などのマスコミ報道で知った。
2. がんセンターのホームページ等のインターネットで知った。
3. 市民公開講座等の講演会で知った。
4. 地域の広報誌で知った。
5. 病院等のポスターで知った。
6. 知人等からの口コミで知った。
7. その他（具体的に _____ ）



問8) 病気になった時、病気の不安や疑問を解決するのに、医師の説明のほかに大切だとあなたが考えるものは何ですか？（あてはまるものすべてに○）

1. 医師のみでない、看護師やその他の医療従事者との面談
2. 患者さんの体験談
3. 他の患者さんとの会話や学べる機会
4. より多くの情報や説明（情報の量）
5.じっくり考える時間（時間の量）
6. パンフレットや本などの資料
7. テレビなどの医学情報番組
8. インターネットなどの医学情報サイト
9. ビデオやDVDなどの情報媒体
10. その他（具体的に： _____ ）



次ページへ続きます

問9) がん患者さんが必要とする情報をとりまとめた「患者必携」をご覧になった、印象を教えてください (当てはまるものすべてに○)

<p>記入例→</p>	<p>重い・軽い・持ちやすい・持ちにくい・字が大きい・字が小さい 読みたい・書きこみたい・欲しい・誰かに紹介したい・買いたい 優しい・頼れそう・使いたい・気が重くなる・読みにくい 書きづらい・怖い・つらくなる・頼りにならない・いない その他→ ()</p>
<p>a) がんになったら手にとるガイド</p> 	<p>重い・軽い・持ちやすい・持ちにくい・字が大きい・字が小さい 読みたい・書きこみたい・欲しい・誰かに紹介したい・買いたい 優しい・頼れそう・使いたい・気が重くなる・読みにくい 書きづらい・怖い・つらくなる・頼りにならない・いない その他→ ()</p>
<p>b) わたしの療養手帳</p> 	<p>重い・軽い・持ちやすい・持ちにくい・字が大きい・字が小さい 読みたい・書きこみたい・欲しい・誰かに紹介したい・買いたい 優しい・頼れそう・使いたい・気が重くなる・読みにくい 書きづらい・怖い・つらくなる・頼りにならない・いない その他→ ()</p>

問10) もし、あなたやあなたの家族ががんになったら、使ってみたいと思いますか？

(あてはまるもの1つに○)

	絶対使いたくない	どちらかと言えば使いたくない	どちらとも言えない	どちらかと言えば使いたい	ぜひ使いたい
a) がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b) わたしの療養手帳	1	2	3	4	5

問11) それぞれに書かれている内容は詳しくすぎますか、それとも簡単すぎますか。a) ~ b) のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても詳しくすぎる	やや詳しくすぎる	ちょうどよい	やや簡単すぎる	とても簡単すぎる
a) がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b) わたしの療養手帳	1	2	3	4	5

問12) これらの冊子(「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」)が患者さんの手に届くことは患者さん、ご家族にとって役立つと思われましたか。それぞれについてお聞かせください。

(各々○印は1つ)

	とても役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない
a) がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b) わたしの療養手帳	1	2	3	4	5



次ページへ続きます

問13) あなたが、がんの患者さんだとして、この冊子「がんになったら手にとるガイド」を読んで1-2ヵ月後に、どのように活用している（あるいは、していない）と思いますか。

「活用している」と思うところをすべて○、そのうち「最も活用している」、「最も不安の解消に役立つ」と思うところ1つに◎をしてください。

また、「まったく読まない」と思うところすべてに△をつけてください。

記入例

活用している	不安の解消につながる	まったく使わない	項目名
			このつながりを保つ
○			治療法を考える
◎			治療までに準備しておきたいこと

活用していると思う項目すべてに○をつけてください。また、最も活用していると思う項目1つに◎をつけてください。

活用している	不安の解消につながる	まったく使わない	項目名
	○		痛みを我慢しない
		△	10 がんの再発や転移のことを知る
			11 補完代替療法を考える

まったく使わないと思う項目すべてに△をつけてください。

不安の解消につながると思う項目すべてに○をつけてください。また、最も不安の解消につながると思う項目1つに◎をつけてください。

以下の表に書き入れてください

活用している	不安の解消につながる	まったく使わない	項目名
			患者必携ガイドマップ
			第1部 がんと言われたとき
			1 診断の結果を上手に受け止めるには
			2 がんと言われたらまず行うこと
			3 がんと言われたあなたの心に起こること
			4 情報を集めましょう
			5 相談支援センターにご相談ください
			第2部 がんに向き合う
			第1章 自分らしい向き合い方を考える
			1 自分らしい向き合い方とは
			2 社会とのつながりを保つ
			3 治療法を考える
			4 治療までに準備しておきたいこと
			5 がんに関わる“チーム医療”を知ろう
			6 医療者とのよい関係をつくるには
			7 セカンドオピニオンを活用する
			8 患者同士の支え合いの場を利用しよう
			9 療養生活を支える仕組みを知る
			10 限られた時間を自分らしく生きる
			第2章 経済的負担と支援について
			1 治療にかかる費用について
			2 公的助成・支援の仕組みを活用する
			3 民間保険に加入しているときには

活用している	不安の解消につながる	まったく使わない	項目名
			第3部 がんを知る
			第1章 がんのことで知っておくこと
			1 がんの発生と進行の仕組みを知る
			2 がんの検査と診断のことを知る
			3 がんの病期のことを知る
			4 手術のことを知る
			5 薬物療法(抗がん剤治療)のことを知る
			6 放射線治療のことを知る
			7 臨床試験のことを知る
			8 緩和ケアについて理解する
			9 痛みを我慢しない
			10 がんの再発や転移のことを知る
			11 補完代替療法を考える
			12 医療者とのよい関係をつくるには
			第2章 療養生活のためのヒント
			1 体調を整えるには
			2 食事と栄養のヒント
			3 排泄とトイレのヒント
			4 休養と睡眠のヒント
			5 気分転換とストレス対処法
			第3章 用語の解説
			それぞれのがんの療養情報



次ページへ続きます



最後に、がんに関する情報を地域において広げるための取り組みについておうかがいします。ご自由にお書きください。

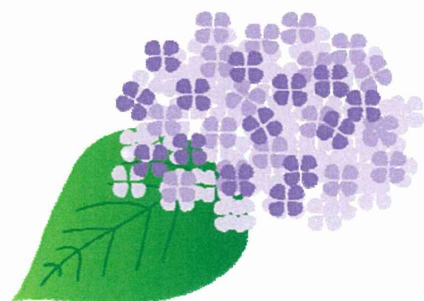
問14) がんの予防や検診、病気や治療法、ふだんの生活のことなど、がんについて知りたいこと、興味があることがあったらお書きください。

問15) 患者さんだけでなく、家族、一般の人、子どもなどを含めて、多くの人に信頼できるがん情報を届けるには、あなたの地域においてどのような取り組みが必要だと思いますか。

問16) 最後に、患者必携をお読みになったご感想、ご意見がございましたら何でもお書きください。

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。



このアンケート調査は

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略事業）

「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」

および

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」

によって、地域の皆さまのご協力により実施しています。ご協力に御礼申し上げます。

分担研究報告（清水）

厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業
平成23年度 分担研究報告書

栃木県における自立支援型がん情報「患者必携」の配布・普及に関する研究

分担研究者	清水秀昭	栃木県立がんセンター	病院長
研究協力者	長野泰恵	同上	相談研修課（保健師）
	児玉哲郎	同上	所長

都道府県がん診療連携拠点病院である栃木県立がんセンターにおいて、自立支援型がん情報「患者必携」の周知・普及のため「患者必携」完成版（研究用）を用い、県庁健康増進課を介して健康福祉センターにおいて、がん患者・家族を支援する立場にある医療・介護者に向けて情報提供し、参加者を対象にグループワーク研修後にアンケート調査を行なった。保険代理店研修・講演会においてもアンケート調査を行なった。また、センター広報用パンフレットで「患者必携」を用いた地域連携ネットワーク構築について述べた。これらの活動およびアンケート調査結果から「患者必携」は患者サポーター育成のためのツールになる可能性が示唆された。

A. 研究目的

本分担研究は、栃木県における都道府県がん診療連携拠点病院として地域における『がん「患者必携」』（以下、「患者必携」とする。）の配布・普及などを評価することを目的としている。すなわち、主任研究者の研究課題「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」に関連し、平成21年度は栃木県をひとつのモデル地域として「患者必携」試作版を試験配布し、その意義などについてアンケート調査にて評価した。平成22年度は周知・普及のために市民公開講座を開催し参加者へのアンケート調査を行ない、その意義について評価した。

これらの流れの中で、本年度はがん患者・家族を支援する立場にある関係者を対象に「患者必携」完成版を用い、地域連携ネットワーク構築を目的として研修会およびアンケート調査を行なった。さらに、がん患者・家族や医療者

が使用することに関する評価のアンケート調査もなされた。

B. 研究方法

(1) がん患者・家族を支援する立場にある医療・介護者および関係者への周知・研修およびネットワーク構築

①地域がん診療連携拠点病院における「患者必携」を用いた研修

i) 開催準備

分担研究者より地域がん診療連携拠点病院を開催場所とすることを依頼した。地域拠点病院・県健康増進課および二次医療圏健康福祉センターの連携により参加者募集がなされた。

ii) 参加者への研修およびアンケート調査(資料①)

「患者必携」および地域連携に関する説明・講演が担当者よりなされ、その後グループ別に地域の現状を含めた意見交換を行い、討議内容に

ついて2-3のグループから発表を行なった。アンケート調査は研修終了後2週間を目途に郵送回収とした。

②保険代理店研修における講演およびアンケート調査(資料②)

がん医療における早期発見・治療および治療費などの内容で講演を行ない、がん医療政策の一環として「患者必携」について説明した。アンケート調査は研修終了後2週間を目途に郵送回収とした。

(2) センター広報用パンフレットによる周知「患者必携」を用いた地域連携ネットワーク構築について述べた。

C. 結果

(1) がん患者・家族を支援する立場にある医療・介護者および関係者への周知・研修およびネットワーク構築

①地域がん診療連携拠点病院である上都賀総合病院において2011年9月22日に研修会が行なわれた。

i) 参加者49名を異なる職種(医師・看護師・保健師・薬剤師・ケアマネジャー・MSWなど)で構成される6名前後のグループ分けを行なった。

ii) 研修参加者へのアンケート調査結果(資料③) 研修参加者49名のうち29名(59%)よりアンケート調査の回答があった。『問5 「患者必携」を知っていたか』について66%が知らなかった、の回答であった。『問6 患者・家族に役立つか』は、「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」は80%前後に、「地域の療養情報」は90%に「とても役立つ」「まあ役立つ」であった。医療者に対する質問では『問8 医療者に役立つか』では「がんになったら手にとるガイド」に対して「とても役立つ」「まあ役立つ」

が90%以上であった。同様に、『問9 説明時に活用したいか』では「がんになったら手にとるガイド」「地域の療養情報」に対して「絶対活用したい」「ときどき活用したい」が90%前後であった。1つだけを選択した項目は、『問10-① 患者が活用すると思う項目』は「2.1.3 治療法を考える」「2.2.1 治療にかかる費用について」「2.2.2 公的助成・支援の仕組みを活用する」、『問10-② 患者の不安の解消に役立つと思う項目』は「1.3 がんと言われたあなたの心に起こること」「2.2.1 治療にかかる費用について」、『問10-③ 医療者として活用すると思う項目』においては「2.2.2 公的助成・支援の仕組みを活用する」「3.1.8 緩和ケアについて理解する」などが多くあげられた。

自由記載では、『問11 加えた方がよいと思う情報』には、「独居の方の対応(特に生涯孤独の方)」「税務署・ハローワークの連絡先」であった。『問12 患者必携を紹介、情報について伝えることは可能か』では「業務上、直接がん患者への支援に携わっていないため、患者への直接の情報提供は困難だが、支援関係者を通して情報提供することは可能」という回答がみられた。『問16 効果的に活用されるための提案・意見』には「市町主催の各種イベント(健康まつり・市民向け講演会・秋まつりetc)やがん検診・健康相談等開催時、患者必携の見本を展示し周知を図る」などが回答された。

②保険代理店研修参加者に対するアンケート調査結果

参加者99名のうち32名(32%)より回答があった。属性は一般社員、管理職・役員が82%であった。『問4 患者必携の認知状況』は31名(97%)において「知らなかった」と回答した。『問5 第1印象』では、「がんになったら手にとるガイド」は半数以上で「重い」とあったが、『使用について』は「ぜひ使いたい」「どちらかと言えば使いたい」が90%以上、『役立つか』

は「とても役立つ」「まあ役立つ」が90%以上であった(資料④)。自由記載では、研修会参加者職種の関係から先進医療や経済的負担・支援に関する意見などが多くみられた。すなわち、「先進医療について部位別がんの有効なものと治療できる施設を掲載頂きたい」「差額ベッド代の病院側の請求に対し、不払いできる要件をきちんと明示し、患者が泣き寝入りし、高額のベッド代を支払わなくても安心して治療を受けられる情報をこの本で開示して下さい。」などがあった(資料⑤)。

(2) センター広報用パンフレットによる周知(資料⑥)

関係医療機関に送付するとともに、入院・外来患者が手にとれる場所に設置した。

D. 考察

2007年(平成19年)4月にがん対策基本法が施行され、それを受け同年6月にがん対策推進基本計画が策定された。基本計画を実行すべくがん対策推進協議会が立ち上げられ、種々の事項について検討が行なわれた。それらの中に「インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、拠点病院等がん診療を行っている医療機関に提供していく」ことが提言された。国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部(「効果的ながん情報発信と活用のための支援と整備」がプロジェクトの1項目)がそれを受け『がん「患者必携」』作成・配布の政策的事業が開始された。同時にこれら事業が効果的・効率的に行なわれるように支援・評価・提言を行なうために主任研究者の研究班が立ち上げられた。支援の具体的内容として、国民の不足感が強いがん医療に関して、病気や治療に対する患者自身の理解を助ける

ことに加え、刻一刻と生じる不安や疑問に対して自発的に対応できるための意志決定と自立支援に関わる情報提供等を行うことにより、日本全国のがん患者に質の高いがん医療を普及させることである。本年度の分担研究は最終年度であり「完成版」を研修会・講習会における配布を通してのアンケート調査をもとに、栃木県内のがん情報ネットワーク構築を行ない、周知・普及対象を広げることとその評価を行った。地域がん診療連携拠点病院における「患者必携」を用いた研修では、参加者が医療関係者のみならず、市町村における在宅医療を支援する介護関係者も参加し、多職種の交流が行なわれた。「患者必携」の認知度は拠点病院の医療関係者には知られていたが、介護関係者には知られていない傾向がみられた。同様に、保険代理店研修参加者は一般健常人であり、ほとんど認知されていない状態であった。しかし、両者の研修・講習会の参加者ともに、「がんになったら手にとるガイド」を実際使用することを前提に内容を供覧した後は、好意的な反応が多くみられた。このことから、内容的には、暫時改訂は必要と思われるが、がん患者・家族などが接し、使用する場の設定にはさらなる努力や戦略が必要と思われた。また、これらをツールとして研修会を行い、地域ネットワーク構築の一助になることも示唆された。

今後も、二次医療圏健康福祉センターにおける研修会を媒体としたがん情報提供を行なうことを県健康増進課と連携することは地域モデルになっていると考えられた。

E. 結論

「患者必携」の周知・普及に努めた。また、地域がん診療連携拠点病院、二次医療圏健康福祉センターと県健康増進課を介して連携を行い、研修会を媒体としたがん情報交換を行なうことは地域ネットワーク構築の地域モデルと

なると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 長野泰恵、佐山由美子、清水秀昭、児玉哲郎、吉成朋子、渡邊清高：栃木県における自立支援型がん情報「患者必携」の普及に関する取り組みについて第49回栃木県公衆衛生学会2011年9月9日
- 2) 清水秀昭、長野泰恵、渡辺晃紀、渡邊清高：栃木県における自立支援型がん情報「患者必携」の配布・普及に関する研究第70回日本公衆衛生学会総会2011年10月21日

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

がん情報に関するアンケート



アンケート回収について 皆さまへのお願い

アンケート締切：10月6日（木）までに、同封の封筒に入れて
栃木県立がんセンター 相談支援センター（長野）まで返送してください。



「患者必携」アンケートのお願い



「患者必携」は患者さん・ご家族が がんの診療上必要な情報を収集し、整理し、あるいは わからないことをメモしたり、医療者と対話をするときに活用していただくように作成しているものです。お渡ししたのち、ご自宅で読んだり、書き留めたりするとき、あるいは、定期的に担当医の診察や、看護師・相談員へ面接や電話相談をされるときや、医療連携や療養介護での情報共有のツールとしてご活用いただくことを目指しています。この「患者必携」は、がんにかかった方の役に立つように全国的に普及できるか、検討段階です。アンケートは、さらに良い「患者必携」にする際の資料にさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

アンケート締切：10月6日（木）までに、返信用封筒にて返送してください。

研究実施機関：厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業

「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究

がん臨床研究事業「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」

（研究代表者 渡邊 清高：国立がん研究センターがん対策情報センター）

研究分担者：清水 秀昭（栃木県立がんセンター 病院長）

ご返送先・お問い合わせ先

栃木県立がんセンター 相談支援センター（相談研修課）長野泰恵

〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南 4-9-13 TEL：028-658-5151(内線 3129)

TEL：028-658-6484（直通）

【ご参考】国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス (<http://ganjoho.jp/>)

「患者必携」掲載ページ をご参照ください

http://ganjoho.jp/public/qa_links/hikkei/index.html

*** 患者必携は PDF ファイルとして無料で閲覧、印刷できます。また、本として書店等で販売しています。**

問1) あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 20歳代 | 4. 40歳代 |
| 2. 30歳代 | 5. 60歳代 |
| 3. 40歳代 | 6. 70歳代以上 |

問2) あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | |
|------|
| 1. 男 |
| 2. 女 |

問3) あなたの属性を教えてください(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------|
| 1. 医師 |
| 2. 看護師 |
| 3. 保健師 |
| 4. 薬剤師 |
| 5. ケアマネージャー |
| 6. MSW |
| 7. 介護福祉士 |
| 8. 事務職 |
| 9. その他 () |

問4) あなたの勤務種別を教えてください (あてはまるものすべてに○)

1. 病院 2. 診療所 3. 調剤薬局 4. 地域包括支援センター 5. 訪問看護ステーション 6. その他 ()
--

問5) 患者必携のこと、知っていましたか?

1. 知っていた →どこで知りましたか? () 2. 知らなかった (今日初めて知った)
--

問6) 患者必携(「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」と、「地域の療養情報 栃木県版」は、患者さんとご家族にとって役に立つと思いますか。

a) ~ c) のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない
a) がんになったら手にとるガイド 	1	2	3	4	5
b) わたしの療養手帳 	1	2	3	4	5
c) 地域の療養情報 栃木 	1	2	3	4	5

問7) それぞれに書かれている内容は詳しくすぎますか、それとも簡単すぎますか。

a) ~ c) のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても詳しくすぎる	やや詳しくすぎる	ちょうどよい	やや簡単すぎる	とても簡単すぎる
a) がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b) わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c) 地域の療養情報 栃木	1	2	3	4	5

問8) 患者必携(「がんになったら手にとるガイド」「わたしの療養手帳」と、「地域の療養情報 栃木県版」は、医療・介護関係者にとって役に立つと思いますか。

a) ~ c) のそれぞれについてお聞かせください。(各々○印は1つ)

	とても役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない
a) がんになったら手にとるガイド	1	2	3	4	5
b) わたしの療養手帳	1	2	3	4	5
c) 地域の療養情報 栃木	1	2	3	4	5